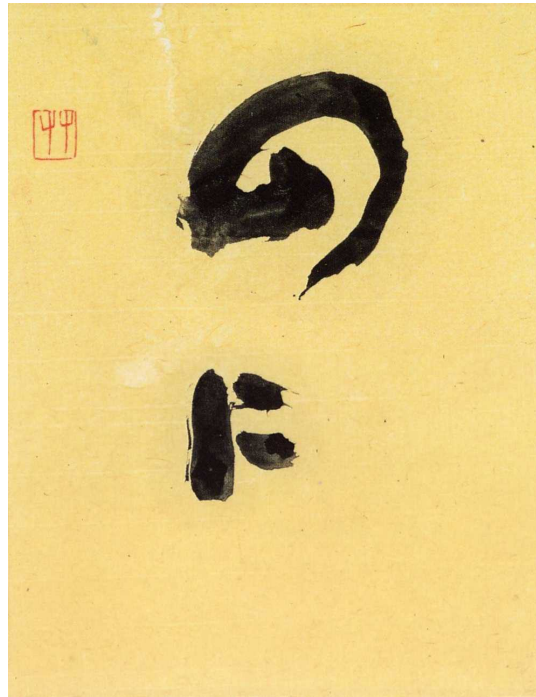


白寿 江口草玄のすべて



《野に》昭和五十九年（一九八四）個人蔵



作家近影（平成二十九年十二月十九日撮影）

このたび、新潟県立近代美術館では、二〇一八年五月二十六日（土）から七月一日（日）まで、「白寿 江口草玄のすべて」を開催します。

柏崎出身の江口草玄氏が平成三十年（二〇一八）、九十九歳、かぞえ百歳を迎えられます。大正八年（一九一九）生まれの氏の書作の活動は、戦前から始まりますが、特に戦後、タテ社会の封建制色濃く残る規制の書壇に訣別し、同志五人で立ち上げる墨人会を活動の場として書の革新に身を投じ、邁進しました。

しかし、同会も組織化が進むとともに「集」が「個」を呑み込み、会創立の趣旨が失われたとして、「個」に徹するために脱退します。以降「個」としての書作により沈潜し、個展やグループ展等で「ことば」を重視した作品を発表し続けています。

その活動は、自身の書作だけに止まらず、子どもたちに単なる「習字」ではない、伸び伸びとした書教育を、『ひびき』誌の発行を通じて実践してきました。

一方で書への深い造詣から、独自の視点での亀田鵬斎や鈴木鳴鐸、良寛など近古の書人の研究などにも亘っています。

本展では、一世紀に亘る江口草玄のすべてを辿ります。書作品をはじめ、昭和三十（一九五〇）年にベルギーの画家アレシンスキーの撮影した映画〈Calligraphie Japonaise〉（日本の書）の上映、『ひびき』誌での見本や臨書、自身の様々な書への思いや、研究等を記した『山階通信』、路傍草花の、そして出身地の柏崎への思いが込められた「柏崎ふるさとまつり」の行灯に至るまで、書人・江口草玄のすべてをご覧いただけます。

展覧会の見どころ

I 草玄、一世紀の生涯、中でも八十年を超えることばの姿を一望。五部立てで構成。

一、胎動

書への関心から競書雑誌で学び、戦後『書之美』（研精会）会員となっていた姿を紹介。

二、墨人会

既存の書道界に疑問を持ち研精会退会し、墨人会を結成する歩みと初期作品を紹介。

三、文字の解体と文字への回帰

文字から離れ、書に於ける文字の意味について考え、そして再び文字に回帰する課程を紹介。

四、書の力

一九六〇年代の活躍期の発言、出版物等と共に、圧倒する表現作品を紹介。また、並行して行われた、青少年への書教育活動も紹介。

五、墨人会脱退と「ことばの姿」

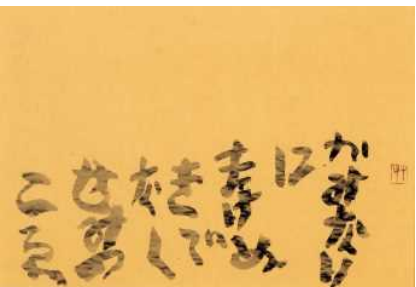
完成度の問題から墨人会脱退に到る、漢字からかな書きへの転換を、『草玄ことば書き』とともに、現在に到る作品を紹介。



《刻野》
昭和三十年（一九五五）



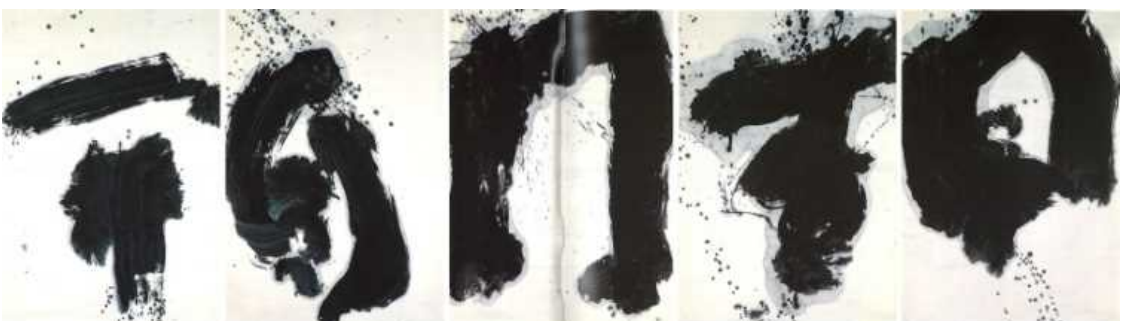
《川》昭和三十八年（一九六三）



《雷に負けぬ気で啼く
蝉の声（武玉川）》
平成三年（一九九一）

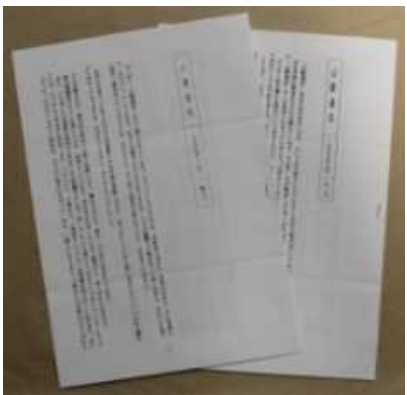


〈Calligraphie Japonaise〉から



《風無門自開》
昭和三十九年（一九六四）

II 書作品のみならず、書への思い、近古の書人の研究を記した私家版『山階通信』、野の草花を描いたスケッチ等の展示



『山階通信』 個人蔵

III 子どもたちへの、筆法にこだわらない書教育の普及誌『ひびき』の紹介



《臨顔真卿 宗璟碑側記》個人蔵

見本「とり」個人蔵

IV 出身地・柏崎への地元愛

地元柏崎への深い愛着を示す作品等の展示



「柏崎ふるさとまつり行灯」 個人蔵

V 生涯の作品や語録が辿れる図録

予価 二、二〇〇円 (A4変形版二九六頁)



スケッチ《無題(あけび)》
平成九年(一九九七) 個人蔵



『ひびき』誌(一部) 個人蔵



《春日公園》
平成十一年(一九九九)

関連催事

◆美術鑑賞講座「江口草玄の一世紀を辿る」

日時：六月九日(土) 十四時～十五時三〇分(十三時三〇分開場)

講師：松矢国憲(新潟県立近代美術館 専門学芸員)

会場：新潟県立近代美術館 講堂

参加費：参加無料 申込不要 定員一六五名

◆作品解説会

日時：五月二十七日(日)、六月三日(日)、十七日(日)、二十四日(日)、七月一日(日)

各日 十四時～

会場：新潟県立近代美術館 企画展示室

参加費：参加無料 ただし、江口草玄展観覧券が必要。

基本情報

◆展覧会名 白寿 江口草玄のすべて

◆展覧会会期 二〇一八年五月二十六日(土)～七月一日(日)

◆開館時間 午前九時～午後五時(観覧券の販売は閉館三〇分前まで)

◆休館日 月曜日

◆観覧料 当日券：一般八〇〇円(六〇〇円) 大・高校生六〇〇円(四〇〇円)

前売券：一般六〇〇円

※中学生以下は無料。()内は有料二〇名様以上の団体料金。

※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除。受付にて手帳を提示。

◆会場 新潟県立近代美術館

◆主催 新潟県立近代美術館

◆後援 長岡市、柏崎市、長岡市教育委員会、柏崎市教育委員会、柏崎商工会議所、

新潟日報社、BSN新潟放送、NST、TENYテレビ新潟、

UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FMPORT 79.0、

長岡新聞社、柏崎日報社、(株)柏新時報社

【お問合せ】

新潟県立近代美術館

〒九四〇-二〇八三 新潟県長岡市千秋三丁目二七八一-四

TEL：〇二五八-二八一四-一 FAX：〇二五八-二八一四-一五

URL：<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

E-mail：kinbi@coralocn.ne.jp

担当：松矢(展覧会の内容) 宮下(広報・画像貸出し)